

海産生物放射能影響評価調査

(有 用 水 産 生 物 分 布 調 査)

松本 昌也・早川 豊・田中 俊輔・上原子次男・藤田 修央

発 表 誌 名

62年度海産生物放射能影響評価調査報告書（青森県）

抄 録

有用水産生物分布調査

1. 漁 獲 調 査

(1) 標本船調査

調査海域（白糠～三沢沿岸）で営まれている刺網、一本釣、昼イカ釣、桁網、船曳、小型定置網、大型定置網、旋網及び小型底曳網9漁業種類について白糠、六ヶ所海水、三沢市、県旋網及び八戸遠海の各漁協から14経営体を抽出し操業状況等を調査した。

この結果、極沿岸で営まれている漁業は刺網、桁網、船曳及び小型定置網で、刺網はヒラメ、カレイ等の対象に周年、桁網はホッキガイを対象に12月から3月まで、船曳はシラウオを対象に11月から12月まで、小型定置網はサケを対象に9月から1月までの操業となっていた。

これら以外の漁業は主に水深30m以深の海域で営まれ、一本釣はヒラメ、メヌケ類及びマス類を対象に周年、昼イカ釣は7月から10月まで、大型定置網はサケ等の回遊魚を対象に8・9月を除く周年、旋網はサバ、イワシ類を対象に夏季から秋季、小型定置網はタラ、カレイ類を対象に冬季の操業となっていた。

(2) 検 体 調 査

白糠、六ヶ所海水、三沢市の三漁協からマイワシ他19魚種を購入し、体長、食性、成熟度等を調査した。

マイワシ……平均全長21.3cmであった。

サケ……平均尾叉長63.5～72.4cmであった。胃内容物はイワシであったが多くは空胃であった。生殖腺指数は10月で17.6、12月で19.3であった。

（雌のみ購入）

サクラマス……平均尾叉長は雌雄共に45.3cmであった。胃内容物は主に魚類でイカナゴ、イワシであった。生殖腺指数は雄で0.2、雌で0.6と低かった。

サバ……平均全長30.7cmであった。

フクラギ……平均全長は30.1cmであった。胃内容物は魚類であった。

バラメヌケ……平均全長24.0～26.6cmであった。胃内容物は全部の検体が空胃で不明であった。生殖腺は未発達で雌雄も不明であった。

クロソイ……雄の平均全長は28.3cm、雌のそれは27.9cmであった。胃内容物は魚類（イワ

シ)、アミ類及びイカ類であった。生殖腺は雌雄共に未熟であった。

キツネメバル……平均全長34.0cmであった。胃内容物は魚類、イカ類であった。4月には生殖腺が発達し産卵期が間近いことを伺わせた。

アイナメ……平均全長は31.2～35.0cmであった。胃内容物は魚類、甲殻類、貝類、多毛類で底棲性の動物を種々捕食していた。

ヒラメ……雄の平均全長27.8～31.2cm、雌のそれは28.7～39.1cmであった。胃内容物は魚類、エビ類が主であった。生殖腺はいずれも未発達であった。

ムシガレイ……雄の平均全長は24.0cm、雌のそれは29.0cmであった。胃内容物は魚類であったが空胃の個体が多かった。

マガレイ……雄の平均全長は20.0cm、雌のそれは26.0cmであった。胃内容物は魚類、エビ類であったが空胃の個体が多かった。4月には生殖腺は発達し産卵期が間近いことを伺わせた。

マコガレイ……雄の平均全長は25.0～29.0cm、雌のそれは25.2～31.0cmであった。4月には殆ど個体が空胃で生殖腺指数も12～13と高いことからこの時期が産卵期と考えられた。

イシガレイ……雄の平均全長は28.6cm、雌のそれは29.4cmであった。胃内容物は魚類、貝類であった。生殖腺は雌雄共に未熟であった。

ババガレイ……雄の平均全長は30.0cm、雌のそれは32.0cmであった。胃内容物は殆どの個体が空胃で不明であった。

ヒラツメガニ……雄の平均甲幅は 5.8～ 7.7cm、雄のそれは6.2cmであった。

ガザミ……雄の平均甲幅は12.6～14.6cm、雌のそれは12.6～13.3cmであった。

ホッキガイ……平均殻長は 8.2cmであった。

スルメイカ……7月の雄の平均外套長は17.1cm、雌のそれは17.3cmであった。10月の雄の平均外套長は25.4cm、雌のそれは25.8cmであった。胃内容物は魚類、甲殻類、イカ類であった。成熟度は10月で雄の90%が半熟の状態であった。

キタムラサキウニ……平均殻径 6.7cmで生殖巣重量は13.7gであった。

2、資源分布調査

試験船青鵬丸(56トン)によるかけまわし漁法で魚類等底棲生物の採集を行い、それらを分類測定した。

採集物は魚類21種、その他の水産動物15種であった。

調査海域における優先種は魚類ではニギス、ウマズラハギ、その他の水産動物ではカイメンヤドカリ、カメホーズキョウチン類であった。

有用種は魚類ではスケトウダラ、アンコウ、アイナメ、ホッケ、カレイ類、その他の水産動物ではケガニ、タコ類、イカ類であったが量は少なかった。

3、種苗放流調査

六ヶ所村尾駿地先に標識ヒラメ6,746尾を放流しその移動状況を調査した。

放流24時間後では放流尾数の1/3が、放流8日後では殆どが他の海域へ移動した。